



加納久宜所用大礼服



加納久通書簡・  
吉川源太夫書簡

加納久宜公没後100年 特別公開

# 玉前神社・一宮町の“宝物”

～一宮藩と加納家～

令和元年12月13日(金)～令和2年2月9日(日)



紅葉散射籠手



松喰鶴鏡

共催：千葉県立中央博物館、一宮町教育委員会 協力：玉前神社

◆開館時間／午前9時～午後4時30分(入場は午後4時まで)

◆休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館)

◆交通／【自動車】圏央道市原鶴舞ICから約20分

【高速バス】品川駅高輪口シナガワゲースから羽田空港・品川～大多喜間の直通高速バスに乗車約80分、大多喜駅下車徒歩約15分

【電車】いすみ鉄道大多喜駅下車徒歩約15分

★いすみ鉄道大多喜駅より無料シャトルバス1日5便運行(ただし、金曜・土曜・日曜・祝日のみ)

◆料金

一般 200円(160円)

高・大生 100円(80円)

※( )内は20名様以上の団体料金

※中学生以下と65歳以上、障害者手帳等お持ちの方は本人と介護者は無料

千葉県立中央博物館

## 大多喜城分館

〒298-0216

千葉県夷隅郡大多喜町大多喜481

電話 0470-82-3007

<http://www.chiba-muse.or.jp/SONAN/>

加納久宜公没後100年。郷土の偉人の系譜は、一宮に何を残したか—

加納久宜公没後100年 特別公開

## 玉前神社・一宮町の“宝物”

～一宮藩と加納家～



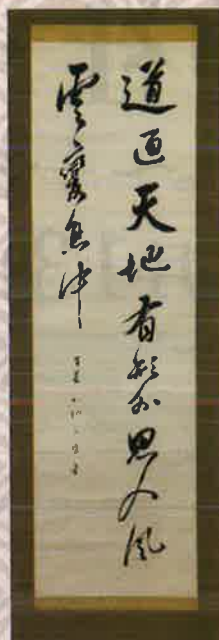
一宮地域は、上総国一之宮である玉前神社の門前町として栄えてきました。江戸時代中期に入ると、江戸幕府8代将軍・徳川吉宗の側近である加納久通が一宮に所領を与えられます。その数代のち、加納家は一宮に陣屋を移し「一宮藩」が成立します。本展では“宝物”という視点から、一宮藩と加納家、玉前神社にまつわる資料を展示し、歴代の藩主の功績について紹介します。

### 玉前神社の“宝物”

玉前神社に伝わる「宝物」。これらの中から、加納家にまつわるものを展示します。



▲ 欄萌黄緘胴丸（玉前神社所蔵）



◀ 加納久宜掛け軸（一宮町教育委員会所蔵）

### 一宮町の“宝物”

一宮町に伝わる「宝物」。町内に伝わる加納家ゆかりの品々を展示します。



▲ 欄間彫刻「農者資本之本」の一部  
「加納久宜に稲を渡す子ども」  
(個人宅、パネル展示予定)

#### 主な展示資料

- ・ 萌黄緘胴丸(一宮町指定文化財、玉前神社所蔵)
- ・ 太刀 銘豊後国長圓(玉前神社所蔵)
- ・ 加納久宜所用大礼服(玉前神社所蔵)
- ・ 蓬萊鏡(一宮町指定文化財、玉前神社所蔵)
- ・ 加納家史料(一宮町教育委員会所蔵)
- ・ 加納久宜掛け軸(一宮町教育委員会所蔵)
- ・ 立花種恭掛け軸(個人所蔵)
- ・ 加納久朗宛吉田茂書簡(一宮町教育委員会所蔵)